



宮司。プレス 第百五十八号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ
発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年 六月 三十日

◇宮司の柴田です。今日は、水無月(みなづき)の晦日(つごもり)、大祓式(おおほらいしき)を齋行(さいこう)する日です。古今和歌集に、「水無月の 夏越(なごし)の祓(はら)い する人は 千歳(ちとせ)の命 延ぶといふなり」と詠まれています。今のよう

に、文明が進歩していない頃、身のまわりにおこる、ごくわずかな不幸な出来事や病気や怪我(けが)は、罪(つみ)や穢(けが)れからもたらされると考えられていました。その罪や穢(けが)れを祓(はら)って、まさに、「日々是好日(にちにちこれこうじつ)」、「今日が、本当に良い日(このひがまことよいひ)でありますように」と、ささやかながらも、つましい日常を願ったのです。それは、今ある命に感謝をして、出来たこと出来なかつたこと、願いが叶(かな)ったこと、叶わなかつたことがあろうとも、折り合いをつけて、軌道(きどう)の修正(しゅうせい)をはかりつつ、前向きに人生を楽しむという敬神生活(けいじんせいふ)にほかなりませ

ん。その敬神生活とは、言いかえるならば、「日清日新日進(にっしん にっしん にっしん)」、「日々清々しく、日々新たな気持ちで、日々

前向きに歩むということになるのではないでしょう。

◇吉田兼好(よしだ けんこう)が記(しる)した徒然草(徒然草)の第百二十三段には、人間生活の基本条件が述べられています。既刊号(きかんごう)の平成二十三年九月発行の宮司プレス第

六十四号にも詳述(しょうじゆつ)しています。「第一に食ふ物、第二に着る物、第三に居る所(ごう)の平成二十三年九月発行の宮司プレス第

なり」、「つまり衣食住で、餓(う)えずに、寒さをしのぎ、風雨(ふうう)をよけて静かに暮らす事が、生活の基本条件であると説いています。さらに、人は病気になるから、医療を忘れてはならないと説いています。「薬を加へて、四

つの事、求め得ざるを貧(まず)しとす。この四つ欠けざるを富めりとす。この四つの外を求め営むを奢(おご)りとす。」と記(しる)されています。衣食住と薬があれば、充分であり、それ以上望むのは贅沢(ぜいたく)であるとい

ているのです。そして「四つの事儉約(けんやく)ならば、誰の人も足らずとせん。」、衣食住と薬が、つましいながら足りてい

れば、人間生活の基本条件を満たしていると論(さと)しているのです。コロナウイルス禍の世相の中、「新常態(しんじょうたい)」ともい

うべき日常生活を余儀(よぎ)なくされています。ウィルス学者の山内一也(やまうち かずや)氏は、「ウィルスは三十億年前には地球上に誕生し、あらゆる生物に見つかっている。人類は地球上に現れた最後の動物で、ウィルスの中に生れてきたわけで、七百万年前にチンパンジーから分かれた時からウィルスと共存してき

た。」と述べられています。さらに、どのようにウィルスと共生(ききょうせい)していくかを考え直す必要があるとも仰(おっしゃ)っています。科学史家の村上陽一郎(むらかみ よういちろう)さんは、現在のコロナ禍を「天然痘(てんねんとう)、ポリオ、日本脳炎等、人類は多くの感染症と付き合ってきた。一部はほぼ制圧した形になっていた。長い目で見れば今回のケースも、いずれは歴史の中で共存に持つていけると思う。」と述べられています。情報が錯綜(さくそう)し、何が正解なのか、どうしたらよいのか、先の見えにくい不安が募(つの)り、渦巻(うずま)く毎日であります。やはり、今、私たちは、「きつと共生共存できる、ウィズ コロナ」という希望を捨てない心を持ち続けていくことが大切ではないでしょうか。

◇御朱印を所望(しょもう)された方には、もれなく、彦島の地図が描かれた当紙(あてがみ)

しているのです。コロナウイルス禍の世相の中、「新常態(しんじょうたい)」ともい

を差し上げています。その地図の裏には、水茎（みずくき）の跡（あと）が麗（うるわ）しくありませんが、次のような言の葉を墨書（ぼくしよ）しています。

◇「雨過天晴雲破処（うかてんせいしよもやぶるところ）」と「随所主作（ずいしよしよとなれば）立処皆真（りつしよみなしんなり）」です。「雨過天晴雲破処」とは、雨が降り、そして、雨が止んで、その雲の切れ間に抜（ひろ）がる澄み切った青空のことです。その昔、唐の皇帝が青磁（せいじ）の壺（つぼ）を作れと命じられた時に、そのような色をだせとの無理難題であります。転じて、どんな苦しい時にも、きつと澄み切った青空を見上げることが出来る事を信じて生きていく心がけです。「随所主作立処皆真」、今やるべきことに一生懸命に取り組みなさい、そうすれば、必ず上手（うま）く事が運びますよという教えであります。この二つの言葉は、前述（ぜんじゆつ）の「日進」に通じるところがある前向きになれる言葉と正しい認（したため）ました。御朱印を所望されずとも、御希望の方には差し上げています。遠慮なくお申し付けください。

◇正岡子規（まさおか しき）さんは、結核を患い、永いこと自宅で臥（ふ）せっておられました。「病牀六尺（びようしょうろくしゃく）」に、「悟（さと）り」という事は如何（いか）なる

場合にも平気で死ぬる事かと思っていたのは間違いで、悟りという事は如何なる場合にも平気で生きている事であった」と書かれています。わたくしども、コロナ禍、まさに、不幸な出来事に見舞われています。しかしながら、徒然草に書かれてあるように四つの事儉約でありますので、「日々是好日」、「日清日新日進」の敬神生活を心がけつつ、「ウイズコロナ」の希望を持ち続け、平気で生きて生きたいものです。

◇五月の祭典行事会議報告

▼月次祭 *五月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *五月一日

▼塩釜神社例祭ならびに新型コロナウイルス

ス感染症流行鎮静祈願祭

*五月三日

▼神社庁関係

◆山口県神社庁役員会 *五月十一日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会 *五月二十七日

◆理事会 *五月二十七日

▼その他

◆迫町自治会役員会 *五月二十日

◇六月の祭典行事会議報告並びに予定事項

▼月次祭

*六月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭

*六月一日

▼貴布禰稻荷神社例祭

*六月六日

▼海士郷恵比須神社例祭

*六月十日

▼柴田家本城家結婚式

*六月二十一日

▼大祓式

*六月三十日

▼神社庁関係

◆山口県神社庁役員会

*六月四日

◆山口県神社庁教化委員会

*六月四日

◆山口県神社庁協議委員会

*六月四日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会

*六月三日、十七日、二十四日

◆クラブ協議会

*六月三日、十二日

◆下関市内5ロータリークラブ会長幹事会

*六月十七日

▼しものせき木鶏クラブ

*六月一日

※しものせき木鶏クラブは、月刊「致知」の愛読者の集まりで、二ヶ月に一回、それぞれの読後の感想を発表するサークル